

手紙 ～親愛なる子供たちへ～

原作詞: 不詳
日本語訳詞: 角智織
日本語補足詞、作曲: 樋口了一

年老いた私がある日
今までの私と違っていたとしても
どうかそのままの私のことを
理解して欲しい

私が服の上に食べ物をこぼしても
靴ひもを結び忘れても
あなたに色々な事を教えたように
見守って欲しい

あなたと話す時 同じ話を
何度も何度も繰り返しても
その結末をどうかさえぎらずに
うなずいて欲しい

あなたにせがまれて繰り返し読んだ
絵本のあたたかな結末は
いつも同じでも私の心を
平和にしてくれた
悲しい事ではないんだ
消え去ってゆくように見える私の心へと
励ましのまなざしを向けて欲しい

楽しいひと時に私が思わず
下着を濡らしてしまったり
お風呂に入るのをいやがるときには
思い出して欲しい
あなたを追い回し何度も着替えさせたり
様々な理由をつけて
いやがるあなたとお風呂に入った
懐かしい日のことを

悲しい事ではないんだ
旅立ちの前の準備をしている私に
祝福の祈りを捧げて欲しい
いずれ歯も弱り飲み込む事さえ
出来なくなるかも知れない
足も衰えて立ち上がる事すら
出来なくなったなら
あなたがか弱い足で立ち上がろうと
私に助けを求めたように
よろめく私にどうかあなたの
手を握らせて欲しい

私の姿を見て悲しんだり
自分が無力だと思わないで欲しい
あなたを抱きしめる力がないのを
知るのはつらい事だけど
私を理解して支えてくれる
心だけを持っていて欲しい
きっとそれだけでそれだけで
私には勇気がわいてくるのです

あなたの人生の始まりに
私がしっかりと付き添ったように
私の人生の終わりに少しだけ
付き添って欲しい

あなたが生まれてくれたことで
私が受けた多くの喜びと
あなたに対する変わらぬ愛を持って
笑顔で答えたい

私の子供たちへ
愛する子供たちへ